

自転車通勤はからだにいいですよ

顧 海根



北京大学東方学系日本語言語文化研究室教授。15年前日本での研究活動の経験を持ち、日本語は非常に堪能。現在、研究室では、言語、文学、文化の3つの専攻分野があり、1994年からドクターコースも開始された。

富田 今日貴国の庶民の足としての交通の変遷を、一国民としてお話いただければと思います。

顧 私は1955年に大学に入るために北京に来ました。当時の北京は道が狭く、自動車はごく僅かです。ほとんどが自転車と驢馬でした。天安門広場の現在の道路は1958年以後にできたものです。新中国ができて10年目の1959年に新しい道路を建設しましたので。その当時の交通は電車でした。路面電車は少なかったのですが、徐々に路面電車とバスが増えてきました。

富田 中国といえば自転車大国ですね。

顧 ほとんどの人が、自転車を使っています。私も1962年から1991年夏まで毎日自転車を利用していました。

富田 夏も冬もですか。

顧 夏も冬も雨の時も(笑)。自転車生活に慣れるとバスとかの公共交通機関は好みません。大学の授業は朝7時半からで、家を6時40分くらいに出ますが、バスや電車は時によって混んだり、遅れたりします。それと30年間毎日自転車に乗って暮らしてみると、体にいいですよ。

富田 いい運動になりますね。

顧 1972年にニクソン大統領が訪中して、自転車が多くのことにショックを受けたようです。アメリカに比べ中国で成人病が少ないのは、足の運動を毎日やっていることと関係があるのでは、ということで、アメリカの新聞に取り上げられたこともあります。

富田 今、北京の人口は1千万人くらいですね。

顧 ええ。自転車の数は、500万台くらいかと思えますので、2人に1台程度で、中国の中では一番多いでしょう。生産台数も輸出台数も世界一で、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ等に輸出されています。都市生活者のほとんどは自転車です。北

京大学でも、校内は広大ですから自転車が必需品です。時限ごとに教室の移動があり、休憩時間は20分ですから、歩いて移動していたら大変です。

富田 道路交通状況はどうなのでしょう。

顧 ここ15年くらい、開放政策が実行されて以来、交通施設を拡大したり、新しい施設を建設したりしています。例えば、三環(三番目の環状道路)は全長21.5kmで、16箇所の立体交差(陸橋)、1.5km毎に橋というふうに整備されていますが、それにしても混んでいる。その原因は、ここ7~8年、北京では自動車台数がすごく増えているんです。例えば、タクシーの黄色いミニバスですが、4年前のアジア大会のちょっと前に5万台増えました。道路が整備されてきたのに、それでも混んでいるのは、相対的に自動車の数が多すぎるのだと思います。

富田 黄色の超ミニバスは、「黄色の虫」と呼ばれているそうですが、庶民の足として利用されているのですか。

顧 はい、よく利用します。

富田 最初の10kmが10元(1元12円)は安いですね。

顧 安いでしょう。料金が距離対応で、渋滞でも料金が上がらないんです。

富田 それと白いちょっと大きい乗り合いバス。

顧 ええ、北京大学の正門の所から北京駅まで18kmくらいですが6元です。ただ遅いですね。

富田 あと、大きなトロリーバスというか、2両編成の。あれが一番の庶民の足ですか。

顧 はい、昔からずっとです。ミニバス、乗り合いバスは80年以降に増えてきたものです。1978年まではなかったですから。黄色の虫は4年前ですね。

富田 ミニバスが交通渋滞を縫って走ったり、自転車や人が斜めに横断したりしていますが、あしたの阿吽の呼吸はどのようになされているのでしょうか。

顧 実は、あれが問題なんです(笑)。外国生活をしてきたものから見ると大変だと思うんですが、外国を見たことがなければ平気なんです。昔からこういう状態に慣れているから。それと、市民の交通安全意識がまだ徹底していないようで、少し問題があると思います。新聞、ラジオ、テレビなどで注意を呼びかけていますが、日本でもあるでしょう「みんな

GU Hai-Gen

で渡れば恐くない」とか。中国では「ひとりで渡れば恐くない」。運転手は人が来ないかとはらはらしながら運転しているんです(笑)。

富田 警察は厳しくないんですか。

顧 やはり場所によって違います。中心地域は厳しくしていますが、国土が広く、警察の目が行き届かないところがあります。今後は、交通改善のためにさまざまな対策をしなければならないのですが、ひとつはハードでしょう。設備を作るだけでは足りないですね。それと同時にやらなければならないのは、やはり人間の教育ですね。

富田 中国では幼稚園とか小学校で交通安全の教育は行われているのですか。

顧 やってはいると思いますが、日本ほどではないと思います。今、小学生はほとんど黄色い帽子を被っているのですが、あれなどはそうだと思います。しかし、車が少なかった時代の、道をどのように歩いてもかまわないといった癖が治るまでは相当時間がかかると思うのですが。

富田 中国全土で年間約6万5千人の死亡事故があると言われていますが、主な原因は？

顧 スピードの出し過ぎと無免許、飲酒、居眠り等です。重大事故はこういったものが原因です。ですから交通を改善するには、当然ハードも重要ですが、人間の教育が大切だと思います。

富田 自転車の教育は何か特別に行われているのでしょうか。

顧 今、確か11歳未満の者は、町で乗ってはいけない。乗る場合は大人に連れられて乗る。そういう規則ですけれども、実際は守っていないようです。

富田 オートバイについてはどうですか。

顧 だんだんミニバイクが増えています。しかし国の政策としては自転車を奨励しています。バイクは、スピードの問題、排気ガス、公害の問題がありますので。自転車の三輪車は、一時はなくなったのですが、14～15年前から復活しました。

富田 駐輪の問題はないんですか。

顧 あります。商店街などで無料の所もありますが、駐車場に停める時は10銭です。15年前に日本で生活していた時、駅に自転車があふれていましたが、今、

北京でも同じような現象が起きています。バス停の周辺に自転車がいっぱい置いてあるといった状況です。家からバス停までは自転車、そこから勤め先まではバスといった使い方をするので。

富田 最近地下鉄がずいぶん整備されていますが、将来計画はどうでしょう。

顧 地下鉄はこれから伸びていくでしょう。郊外まで環状の形で計画しています。北京は、最初の1本は東西のもので、72年にできたものです。次に環状が7～8年前にできました。これからどんどんのぼして、頤和園とか、北京大学の南門の所まで駅が作られると言われています。利用者も多く、近頃、混雑が問題になっています。特に朝と夕方。去年からラッシュアワーには定期券の人しか乗れないということでした。

富田 普通の人には乗れないんですか。

顧 だめだと思います。乗車率の枠から見ると超過しているので、出勤者を優先しているんです。

富田 出勤以外の人には遠慮しなさいと。ところで中国全土で、日本の新幹線みたいな高速鉄道や、高速道路といった長距離輸送の計画はありますか。

顧 高速道路を北京から上海や広州まで作るということが既に決まっているようです。

富田 現在は高速道路は？

顧 部分的には作られているのですが、全部が接続されていないんです。新幹線の問題については、考えていると思います。例えば北京から上海までの500kmくらいのところで。今は特急で17時間です。私の大学生当時は、57時間かかりました。

富田 ずいぶんいろいろなお話をうかがいました。これからの中国の交通状況の発展がたのしみです。本当に貴重なお話をありがとうございました。

北京大学は円明園と隣接し、広大な敷地に赤門、散策道、柳に囲まれた未名池に浮かぶ石の船、格調高い校舎がゆったりと配備されている。若きエリートを育む、歴史の重みに感服した。顧教授は大変温厚な方で、専門外の会見内容をご快諾いただき、心より感謝します。急激な経済発展を遂げつつある中国にとって、交通問題は大きな関心事であろうと、ご推察します。(1994年10月14日北京大学にて実施)

インタビュアー：富田隆夫